

# この子らと

令和4年12月号

## 命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

### 師走到来

#### 昭和のもちつき



お正月をまじかにひかえた年の瀬の年中行事で、今は、ほとんどみられなくなった「もちつき」の風景です。

明けがた、まだ暗いうちから一家総出でもちつき、どの家からも「ペタン・ペタン」と餅つきの音が聞こえていました。もちを丸めるのには、子どもたちも加わってにぎやかでした。昭和は、遠くにいってしまいました。

『餅の粉 ゆずり葉につき めでたけれ(高浜虚子)』

#### さつまいも収穫中の子どもたち



吉野シラス(火山灰等)台地で最も高い位置「寺山」にある鹿児島大学所有の農園です。水はけのよい、ミネラルを多く含むシラス土壌であるこの農園は、さつまいも栽培に適していて、今年も大きく育っていました。毎年、おいしいさつまいもを栽培するため、連作にならないように一年ごとに植える場所を変えています。

シラス土壌が多い鹿児島県は、全国一のさつまいも生産県です。2位茨木県・3位千葉県となっています。

“自分の命は、自分で守る”



不審者等から自分の身を守ることの大切さとその方法を学ばせる「防犯教室」を年長の子どもたちを対象に実施しました。リハーサルのかかない人生をたくましく生きぬく力を幼児期から培っていきたいと思っています。(講師は、鹿児島市安心安全課指導者2名でした。)

### 12月17日「発表会」

本年度も、「川商ホール(市民文化ホール)」で開催!



### 虹の足(吉野弘)

雨が上がり、雲間から乾麺みたいにまっすぐな陽ざしが、たくさん地上にささり、行く手に榛名山が見えたころ、山地を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。

眼下に広がる田んぼの中に、虹がそっと足をおろしたのを。野面にすらりと足をおいて、虹のアーチが軽やかにすっと空に立ったのを。

その虹の足の底に、小さな村といくつかの家が、すっぽりと抱かれて染められていたのだ。

それなのに、家から飛び出して虹の足をさわろうとする人影は見えない。「おーい、きみの家が虹の中にあるぞー。」乗客たちは、頬を火照らせ、野面に立った虹の足に見とれた。

たぶん、あれは、バスの中のほくらには見えて、村の人々には、見えないのだ。そんなこともあるだろう。

他人には見えて、自分には見えない幸せの中で。

年末からお正月、子どもたちの心の中にどんな風景が残されるのでしょうか。昭和の時代に生まれた私は、決して豊かではなかったけれども、もういちどあの頃にもどりたいと無性に思います。吉野弘作「虹の足」を読みながら、「幸せの意味」を考えてみたくなりました。

「幸せでいられるが否かは、自分の心の持ちよう次第」

(エイブラハム・リンカーン)